

## バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE:vancomycin-resistant enterococci)

昨年よりVREの発生があり、その都度関連部署の方々には感染対策にご理解とご協力頂きありがとうございます。

MRSAやCDなどは、耳慣れた言葉になってきたかと思いますが、昨年より時々耳にするVREっていったいどのようなものなのかを今回は紹介したいと思います。

腸球菌はヒトや動物の腸管などに常在している細菌であり、バンコマイシンに耐性を示すVREも含め、健常人である保菌者には特に問題となる細菌ではありません。

しかし、重症な基礎疾患を有する症例、免疫不全を有する症例、胸腹部などの外科手術後の症例、カテーテルを留置している症例などにおいては、尿路感染、手術部位感染、血流感染などを起因する危険性があり、腹膜炎、心内膜炎、髄膜炎、敗血症など重大な感染症に発展して死因となることもあります。

VREはバンコマイシンのみならず、同じグリコペプチド系抗菌薬であるティコプラニンや、その他各種の抗菌薬にも耐性を示す場合が多いため、病院感染対策上の重大な細菌のひとつと言えます。

## VRE感染対策

### 原則 個室隔離＋標準予防策＋接触感染予防策

腸球菌は腸管の常在細菌叢を構成する細菌であり、積極的にVREスクリーニング検査を行わない限り保菌者は発見されにくいと言われています。

そのため、**標準予防策を行っていないければ、VRE保菌に気づかないまま院内伝播が進行する危険があります。**

VREは医療従事者の手、あるいは医療従事者の操作した器材を介して容易に伝播するため、**接触感染予防策を行う必要があります。**すなわち、VREの伝播を防ぐためには手袋およびエプロンまたはガウンなどの物理的バリアが必須であり、また環境から手指を介して伝播するリスクも高いため、患者や医療従事者の接触する箇所に対して日常的な清掃の質の向上を図ることが必要です。



## 標準予防策とは (スタンダードプリコーション)

感染対策で最も大切な対策が**標準予防策**です。では、標準予防策（スタンダードプリコーション）はどのように実施するのか？

標準予防策は、**感染症の有無に関わらず全ての患者に実施**しなければならない対策です。

対策は、汗を除くすべての血液、体液、排泄物、傷のある皮膚、粘膜は感染性があるものと考え実施します。

感染性のあるものに触れる時、または触れる可能性があるときは、適切な防護具（手袋・エプロン・ガウン・ゴーグル・マスクなど）を着用し、適切なタイミングと方法で手指衛生を実施しましょう！

標準予防策がきちんと実施できていれば、未知のVRE保菌者が院内に存在していても院内伝播は防ぐことができます。

この機会に標準予防策を再度確認し、患者・家族や自分達医療従事者を守るために、全職員**の標準予防策実施**をお願い致します。

## 経路別予防策とは

標準予防策だけでは、対応できない病原体に対して**標準予防策にプラスして実施する対策**です。経路別予防策は以下の3つです。

### 【接触感染予防策】

患者や患者周辺の物品・環境等に触れる時には手袋などの着用が必要  
対象病原体：MRSA・CD・VREなど

### 【飛沫感染予防策】

飛沫に触れる可能性がある場合は、サージカルマスク・ゴーグル・手袋などを着用、患者には咳エチケットを指導  
対象病原体：インフルエンザウイルスなど

### 【空気感染予防策】

飛沫核を吸い込むことを防ぐ為、N95マスク着用と陰圧個室隔離が必要  
対象病原体：結核菌・麻疹ウイルスなど